

北九州市公共事業評価に関する検討会議及び 市民意見を踏まえた市の対応方針

事業名：神嶽川都市基盤河川改修事業

北九州市

令和元年9月

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針
(対象事業：神嶽川都市基盤河川改修事業)

【対応方針】

事業を継続する

【対応方針決定の理由】

二級河川神嶽川、砂津川は、小倉北区の足立山に源を発し、本市の市街地を流れ、中津口にて砂津川を分流し、船場町で紫川に合流する河川である。砂津川は分流した後、JR 鹿児島本線を経て、小倉港に流れている。

両河川については、昭和 45 年度から河川改修事業により治水対策を進めてきており(【事業延長】神嶽川:L=約 2.8km、砂津川:L=約 1.2km)、当初、治水安全度 1/30(概ね 30 年に 1 度の頻度で発生する洪水を河川で安全に流す)を目標に、護岸整備等河川改修を行ってきた。その後、流域内の開発や資産集積が進展したことで、治水安全度を 1/50 に見直し、地下調節池の整備に取り組んできた。

神嶽川下流部の旦過市場地区では、平成 21,22 年を含め大雨による浸水が発生しており、治水対策上課題の箇所であったが、本市の商業、観光拠点である旦過市場のまちづくりと一体となった河川改修を行うことが必要であり、これまで検討を進めてきた。

今回、旦過地区の再整備(土地区画整理事業)の事業評価に合わせて、事業期間及び事業費の見直しを行った結果、次のとおりとなる見込みである。

①事業期間：旦過地区の護岸整備、河床掘削、近接の橋梁架け替えを、(仮称)旦過地区土地区画整理事業の事業スケジュールに合わせ、事業進捗を図る必要があることから、事業終了予定を平成 30 年度から令和 15 年度に 15 年間延伸する。

②事業費：旦過地区周辺(旦過地区及び下流3橋(旦過橋、中央橋、恵比須橋))は軟弱地盤であること、狭あいでの施工ヤードの確保が困難なことなどから、施工方法の見直しが必要となった。これが主な要因となり、全体事業費を 146 億円から 161 億円に増額変更する。

よって、神嶽川、砂津川については、今後も治水安全度を向上する取組が必要であり、従前より課題の箇所であった旦過地区での河川改修を進めるためには、本事業を(仮称)旦過地区土地区画整理事業と一体的に行うことが効果的な治水対策であると公共事業調整会議の中で示され、対応方針案として「継続」を決定した。

今回の公共事業評価に関する検討会議では、本事業を計画どおり進めていくことについて、出席した全ての構成員が「異論はない」との意見であった。ただし、具体的な事業の推進にあたって、留意すべき点が意見として挙げられた。

続いて、これらの留意点を踏まえた市の対応方針案について市民意見を募集したが、意見の提出はなかった。

以上より、本事業を「継続」することとし、先の留意点を踏まえて事業の推進に努める。

○公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応：資料2

○市民意見の募集結果：資料3

公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応
(対象事業：神嶽川都市基盤河川改修事業)

| | 公共事業評価に関する 検討会議での意見 | 市の対応方針（案） |
|------------------------------------|--|--|
| <p>(1) 橋梁工事における円滑な交通計画について</p> | <p>且過地区下流の橋梁の架け替えについては、道路切り替えの際、車両の通行を十分に確保し、円滑に進めていくこと。</p> | <p>橋梁の架け替えにあたっては、且過交番前交差点の交通量が多いことから、工事中も車両の通行を十分に確保できるよう、交通管理者など関係機関と協議を行いながら、円滑な工事の推進に努めていきたい。</p> |
| <p>(2) 河川管理道路の活用について</p> | <p>且過地区のにぎわい増進の観点から、河川管理道路の活用が図れるよう検討してもらいたい。</p> | <p>河川改修に併せて整備する河川管理道路については、水辺に親しむ空間として、且過地区の新たな魅力創出につながると考えられることから、今後、事業を進める中で整備内容や活用について検討していきたい。</p> |

神嶽川都市基盤河川改修事業に係る事業概要及び市の対応方針(案)に対する
市民意見の募集結果について

■意見募集期間

令和元年7月23日(火)から8月19日(月)まで

■意見提出状況

意見提出なし